

研究指導教員の決定方法について

応用化学分野 博士前期課程

■研究指導教員の役割

1. 研究指導教員は、学生の希望する研究課題、指導教員の専門分野、指導環境などを考慮して研究課題を決定し、主として研究指導を行う教員である。
2. 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の教育・研究に必要となる授業科目について、シラバスと履修モデルを参考にして個々の学生の指導を行う。
3. 研究指導教員は、学生の希望に基づき学生ごとに1名以上を決定する。

■研究指導教員の決定プロセス

応用化学分野における大学院博士前期課程入学者の研究指導教員の決定のプロセスは以下のとおりである。

1. 志願者は、募集要項の担当教員表等をもとに、事前に希望する教員への研究室訪問や面談を行い、出願書類の志望理由書に「入学後の研究希望内容」を記載する。
2. 入試時の面談及び、出願書類の志望理由書に記載の「入学後の研究希望内容」をもとに、応用化学分野教授会において研究指導教員または研究グループを決定する。指導を希望する教員または研究グループへの受入ができない場合、関連する研究分野の教員と学生が面談を行い、学生の希望を再度確認した上で研究指導教員または研究グループを決定する。
3. 通常、入学までに研究指導教員または研究グループを決定し、分野長より本人に連絡する。
4. なお、研究の進捗等に応じて、研究指導教員を変更することがある。

■副研究指導教員制度

1. 副研究指導教員は、研究指導教員と協力して学生の研究指導を補助的に行う応用化学分野に所属する教員である。
2. 副研究指導教員は、上記に加え、研究指導教員の指導について、学生から相談を受けたり、学生にアドバイスを行う。
3. 副研究指導教員は、学生の同意を得た上で、研究指導教員が1名以上を決定する。

■研究指導計画

本分野の標準的な研究指導計画は、以下の1～7のとおりである。研究指導教員は学生の研究指導を行うにあたり、この研究指導計画を明示し、毎年度の初めに、学生の1年間の研究計画についての打合せを学生と十分に行った上で、以下に沿って、研究指導を行うものとする。学生の研究指導計画の詳細は、学生の研究計画を確認した上で作成し、明示する。

1. 研究計画の立案（1年次4月～7月）

- (1) 学生は、決定した研究課題に関して先行研究の整理、仮説の設定を行い、研究指導教員とともに研究計画を立案する。
- (2) 研究指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究方法・文献検索方法・文献読解方法などを指導する。
- (3) 研究指導教員は、学生が記入し提出した研究指導計画書の研究計画に基づき、課程修了までの研究指導計画を1年ごとに記載し、学生と副研究指導教員に明示する。
- (4) 研究指導教員は、研究指導計画書を分野長に提出する。

2. 研究の遂行（1年次8月～2年次9月）

- (1) 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。1年次では、主に研究方法の確立、予備実験、調査などを行う。2年次では、決定した研究方法にて研究課題に取り組み、データ収集・解析等を行い、研究結果をまとめる。
- (2) 研究指導教員は、研究の進行を確認しつつ、実験・調査等の手技の指導やデータ解析の指導等を行い、研究結果をまとめさせる。
- (3) 副研究指導教員は、研究の進捗状況について随時確認し、研究の進捗状況に応じた指導を行う。
- (4) 研究指導教員は、必要に応じて、研究指導計画の見直しを行い、2年次の初めに、研究指導計画を学生と副指導教員に明示する。

3. 研究経過の中間報告（1年次8月～2年次11月の間に複数回開催）

研究指導教員と副研究指導教員は、学生の研究経過中間報告会を開催し、研究全体の構成の確認および進捗状況の確認を実施する。

4. 修士論文の作成（2年次12月～2月中旬）

- (1) 学生は、これまでの研究成果をもとに修士論文の作成を開始し、研究指導教員のもとで修士論文をまとめる。
- (2) 研究指導教員は、修士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導する。

5. 修士論文の提出（2年次2月中旬）

学生は、2月の指定した期日までに修士論文を、応用化学分野教授会が決定した修士論文主査教員および副査教員に提出する。

6. 修士論文内容の報告（2年次2月中旬）

- (1) 学生は、応用化学分野主催の修士論文発表会において修士論文内容を報告する。
- (2) 研究指導教員は、発表スライドの作成、プレゼンテーションの方法を指導する。

7. 研究指導報告書の提出（2年次3月）

研究指導教員は、研究指導報告書を作成し、副研究指導教員が確認の後、期日までに分野長に提出する。

研究指導教員の決定方法について

応用化学分野 博士後期課程

■研究指導教員の役割

1. 研究指導教員は、学生の希望する研究課題、指導教員の専門分野、指導環境などを考慮して研究課題を決定し、主として研究指導を行う教員である。
2. 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の教育・研究に必要となる授業科目について、シラバスと履修モデルを参考にして個々の学生の指導を行う。
3. 研究指導教員は、学生の希望に基づき学生ごとに1名以上を決定する。

■研究指導教員の決定プロセス

応用化学分野における大学院博士後期課程入学者の研究指導教員の決定のプロセスは以下のとおりである。

1. 志願者は、募集要項の担当教員表等をもとに、事前に希望する教員への研究室訪問や面談を行い、出願書類の入学願書に「指導を希望する教員名」、志望理由書に「入学後の研究希望内容」を記載する。
2. 入試時の面談及び出願書類の入学願書に記載の「指導を希望する教員名」および志望理由書に記載の「入学後の研究希望内容」をもとに、応用化学分野教授会において研究指導教員を決定する。
3. 通常、入学までに研究指導教員を決定し、分野長より本人に連絡する。

■副研究指導教員制度

1. 副研究指導教員は、研究指導教員と協力して学生の研究指導を補助的に行う教員である。
2. 副研究指導教員は、上記に加え、研究指導教員の指導について、学生から相談を受けたり、学生にアドバイスをを行う。
3. 副研究指導教員は、学生の同意を得た上で、研究指導教員が1名以上を決定する。

■研究指導計画

本分野の標準的な研究指導計画は、以下の1～7のとおりである。研究指導教員は学生の研究指導を行うにあたり、この研究指導計画を明示し、毎年度の初めに、学生の1年間の研究計画についての打合せを学生と十分に行った上で、以下に沿って、研究指導を行うものとする。学生の研究指導計画の詳細は、学生の研究計画を確認した上で作成し、明示する。

1. 研究計画の立案（1年次4月～7月）
 - (1) 学生は、決定した研究課題に関して先行研究の整理、仮説の設定を行い、研究指導教員とともに研究計画を立案する。

- (2) 研究指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究の方向性を指導する。
- (3) 研究指導教員は、学生が記入し提出した研究指導計画書の研究計画に基づき、課程修了までの研究指導計画を1年ごとに記載し、学生と副研究指導教員に明示する。
- (4) 研究指導教員は、研究指導計画書を分野長に提出する。

2. 研究の遂行（1年次8月～3年次9月）

- (1) 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。1年次では、主に研究方法の確立、予備実験、調査などを行う。2年次では、決定した研究方法にて研究課題に取り組み、データ収集・解析等を行い、研究結果をまとめる。3年次では、2年次までにまとめた成果を投稿論文として投稿する。
- (2) 研究指導教員は、研究の進行を確認しつつ、実験・調査等の手技の指導やデータ解析の指導等を行い、研究結果をまとめさせる。
- (3) 副研究指導教員は、研究の進捗状況について随時確認し、研究の進捗状況に応じた指導を行う。
- (4) 研究指導教員は、必要に応じて、研究指導計画の見直しを行い、毎年度の初めに、研究指導計画を学生と副指導教員に明示する。

3. 研究経過の中間報告（1年次8月～3年次9月の間に複数回開催）

研究指導教員および副研究指導教員は、学生の研究経過中間報告会を開催し、研究全体の構成の確認および進捗状況の確認を実施する。

4. 博士論文の作成（3年次10月～12月）

- (1) 学生は、これまでの研究成果をもとに博士論文の作成を開始し、研究指導教員のもとで博士論文をまとめる。
- (2) 研究指導教員は、博士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導する。
- (3) 学生は、予備審査で、主査予定教員と副査予定教員から博士論文内容の評価を受け、指摘事項を修正する。

5. 博士論文の提出（3年次1月上旬）

学生は、1月の指定した期日までに博士論文を提出する。

6. 博士論文内容の報告（3年次1月～2月）

学生は、工学研究科教授会（運営委員会）で設置された学位論文審査委員会の主査教員と副査教員が出席する公聴会において博士論文内容を報告する。

7. 研究指導報告書の提出（3年次3月）

研究指導教員は、研究指導報告書を作成し、副研究指導教員が確認の後、期日までに分野長に提出する。